

高校世界史プリント（過去問類似）
近代（市民革命～帝国主義） No.1

名前

得点

/11

問1 19世紀末から20世紀初頭にかけて朝鮮半島で展開された武装抵抗運動において、外交権の剥奪に反発して運動がさらに激化する直接の契機となった、1905年に日本と大韓帝国の間で締結された条約は何か。 (2015年 全国公立入試 類似)

1. 日韓請求権協定 2. 第一次日韓協約 3. 第二次日韓協約 4. 第三次日韓協約

問2 18世紀フランスの啓蒙思想家モンテスキューが、イギリスの憲政をモデルに立法・行政・司法の三権分立を提唱し、近代の民主主義的憲法に大きな影響を与えた著作は何か。 (2007年 全国公立入試 類似)

1. 法の精神 2. 百科全書 3. 社会契約論 4. 哲学書簡

問3 19世紀前半、アブデュルメジト1世が発布したギュルハネ勅令を契機として、オスマン帝国で開始された近代化改革を何というか。行政、軍事、法制などの広範な分野で西洋化が推進されたが、イスラームの礼拝の儀礼に配慮してつばの無いトルコ帽（フェズ）が導入されるなど、伝統との調和も図られた。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. ニザームジェディド 2. タンジマート 3. カヌーンエスサシ 4. イルティザーム

問4 19世紀後半、隣接するビルマがイギリスに、インドシナがフランスに占領される中、国王による近代化改革と外交政策によって、東南アジアで唯一、欧米列強の植民地とならずに独立を維持した国はどこか。 (2006年 全国公立入試 類似)

1. マレー 2. タイ 3. ビルマ 4. ラオス

問5 19世紀末にイタリアの発明家によって開発され、従来の有線による情報伝達とは異なり、航行中の船舶との連絡を可能にするなど、近代の海上通信や軍事のあり方を大きく変革した技術は何か。 (2008年 全国公立入試 類似)

1. 海底電信 2. 無線電信 3. 有線電信 4. 有線電話

問6 日露戦争後の清朝において、近代国家への脱皮を目指す光緒新政の一環として1908年に公布され、国会開設や皇帝大権の維持などを定めた、憲法制定の基本方針を何というか。 (2012年 全国公立入試 類似)

1. 十九信条 2. 憲法大綱 3. 退位詔書 4. 明定国是

問7 18世紀後半のイギリスにおいて、人口増加に伴う穀物需要の高まりを背景に、議会法を通じて合法的に進められた土地の統合・私有地化の動きを何というか。これにより大規模な資本主義的農場が形成され、土地を失った農民は都市へ流入して工業労働者となった。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. 第2次囲い込み 2. 穀物法 3. 第1次囲い込み 4. アイルランド土地法

問8 19世紀後半から20世紀初頭にかけてのタイ（シャム）において、西洋の地理学や測量技術を導入して近代的な地図を作成し、国境線を明確にすることで国家の独立維持に努めた、近代化（チャクリ改革）を推進した国王は誰か。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. ラーマ5世 2. ラーマ4世 3. ラーマ6世 4. ラーマ1世

問9 19世紀初頭のイギリスにおいて、人道主義的な世論の高まりや産業資本家の台頭を背景に、1807年に法的に禁止された、アフリカの人々をアメリカ大陸などへ強制連行して売買した国際的な取引を何というか。 (2005年 全国公立入試 類似)

1. 自由貿易 2. 三角貿易 3. 保護貿易 4. 奴隷貿易

問10 19世紀後半から20世紀初頭にかけて、東南アジアのマラヤ地方では、自動車産業の発展に伴い需要が急増したゴムのプランテーション開発が進められた。この開発において、イギリスが労働力不足を補うために、主に南部のタミル人などをプランテーション労働者として組織的に流入させた国（地域）はどこか。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. シyam 2. ジャワ 3. インド 4. ビルマ

問11 19世紀後半、ヨーロッパ列強の進出に対抗するため、宗派を超えたムスリムの連帯と団結を訴え、のちのイランにおけるタバコ・ボイコット運動などにも大きな影響を与えた思想家は誰か。 (2024年 全国公立入試 類似)

1. アフガーニー 2. ワッハーブ 3. カワーキビー 4. アラービー

答え合わせ・解説 No.1

問1	答え 3 第二次日韓協約	1905年に締結されたこの協約により、大韓帝国は外交権を奪われて日本の保護国となり、漢城（ソウル）に統監府が設置された。この外交権の喪失は朝鮮半島の民衆に強い危機感を与え、武装抵抗運動（義兵闘争）が各地で激化する決定的な契機となった。
問2	答え 1 法の精神	モンテスキューは1748年に著した『法の精神』において、国家権力の濫用を防ぐために三権分立を提唱した。この思想はアメリカ合衆国憲法をはじめとする近代の民主主義的憲法に強い影響を与えた。ルソーの『社会契約論』やシェイエスの『第三身分とは何か』などと区別することが重要である。
問3	答え 2 タンジマート	19世紀前半、オスマン帝国ではヨーロッパ諸国の進出に対抗するため、西洋化を取り入れた国家の再建を目指す近代化改革が開始された。アブデュルメジト1世によるギョルハネ勅令（1839年）によって本格化したこの改革は、行政、軍事、司法、教育など多岐にわたる分野で近代的な制度を導入した。一方で、伝統的なイスラームの価値観や礼拝の作法（額を床につけるため、つばのある帽子は不都合であること）に配慮し、つばの無いトルコ帽（フェズ）を官僚や軍人の制服として採用するなど、西洋化と伝統の妥協点を探る試みもなされた。
問4	答え 2 タイ	19世紀後半の東南アジアでは、イギリスがビルマやマレー半島を、フランスがインドシナを植民地化していった。この両勢力に挟まれたシャム（現在のタイ）は、ラーマ5世らの主導による近代化政策と、英仏の緩衝地帯としての位置づけを利用した外交により、東南アジアで唯一独立を維持することに成功した。
問5	答え 2 無線電信	イタリアの発明家マルコーニが19世紀末に開発した技術は無線電信である。電波を利用して符号を送受信するこの技術は、大西洋横断通信の成功などを経て、それまで不可能であった洋上の船舶と陸上との通信を可能にし、近代の安全保障や情報伝達に多大な影響を与えた。
問6	答え 2 憲法大綱	日露戦争での日本の勝利や立憲制への移行に刺激され、清朝は光緒新政と呼ばれる改革を本格化させた。その中で1908年に公布されたのが憲法大綱であり、日本の大日本帝国憲法を模範として皇帝に強大な権限を残しつつ、9年後の国会開設を約束した。
問7	答え 1 第2次囲い込み	18世紀後半から19世紀初頭にかけて、イギリスでは議会主導で合法的に土地の境界を画定し統合する動きが急速に進んだ。これを第2次囲い込み（エンクロージャー）と呼ぶ。牧羊を目的とした15～16世紀の第1次とは異なり、穀物増産を目的として行われ、農村の社会構造を大きく変容させて産業革命に必要な労働力を都市に供給した。
問8	答え 1 ラーマ5世	タイ（シャム）のラタナコーシン朝第5代国王であるラーマ5世（チュラロンコン）は、19世紀後半から20世紀初頭にかけて内政改革（チャクリ改革）を断行した。その一環として、西洋の近代的な地理学や測量技術を導入し、国境線を明確に描いた地図を作成することで、隣接する英仏の植民地との境界を画定し、東南アジアで唯一の独立維持に成功した。
問9	答え 4 奴隷貿易	18世紀に大西洋三角貿易で繁栄したイギリスでは、19世紀に入ると人道主義的批判や産業革命の進展に伴う経済的要因から、1807年に奴隷貿易が禁止された。その後、1833年にはイギリス植民地全体で奴隷制そのものが廃止されることとなった。
問10	答え 3 インド	イギリス領マラヤでは、自動車産業の発展に伴うゴム需要の増大に対応するため、広大なゴムプランテーションが開発された。この労働力を補うため、イギリスは同じく自国の植民地であったインドから、主に南部のタミル人などの労働移民を導入した。なお、錫鉱山の労働力としては主に中国からの移民（華人）が流入した。
問11	答え 1 アフガーニー	19世紀後半、ヨーロッパ列強の侵略に直面したイスラーム世界において、宗派の違いを超えて全ムスリムが団結すべきであるとする思想が唱えられた。この思想を提唱し、エジプトやイランなど各地の民族運動や改革運動に強い影響を与えた人物はアフガーニーである。彼はイランのタバコ・ボイコット運動を支援するなど、実践的な活動も行った。